
人形の夢

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人形の夢

【Nコード】

N3435C

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

人でありながら、母親に人形として育てられ、笑いもせず、泣く事もしなかった少女・マリエッタ。母親の死により彼女が得たものは…？

（前書き）

この作品は、ホラーテイストとなっております。そこまでグロテスクにはしておりませんが、その手の話に弱い方はご遠慮下さりませ。

『コッペリア』

それは、まさしく生きた人形…

『気持ちが悪い』

私を見た大人は決まってそう言う。彼らがそう思う理由は幼い私でも分かっていた。

私はいわゆる普通ではない。何をもって普通というのか、十五になった今でも分かりかねるが、とにかくそういう事らしい。

何が楽しいのだろう

私の事を笑い、ある事ない事噂をたてる毎日に。

何の意味があるのだろう

人の目に曝され、誹謗中傷をあびる事に。

その私に得られるモノ。それは、私を造り出した女の傲慢気な微笑み。そしてその奥に隠された忌怖。

『貴女は私の可愛いお人形よ、マリエッタ』

いつもの様に女が言う。私もいつもの様に応じた。

『ええ、お母様。マリエッタはお母様のお人形よ』

私の答えに女が微笑む。しかしその日はいつもと様子が違っていった。

女は微笑んだまま、私に銃を握らせる。それは玩具を思わせる程、小さいもの。小首を傾げる私に女は言う。

『マリエッタ。貴女は私の願いを叶えてくれるかしら？』

『ええ、お母様。マリエッタはお母様のお人形。私はお母様の為に在るの』

答えた私に女は益々笑みを深くする。

『ではマリエッタ。お母様を……殺して頂戴』

女は銃を握ったままの私の手を取り、銃口を自分の胸元にあてた。私は女の顔を見つめたまま、静かに指に力を込める。

ダァン…！

乾いた銃声がやけに耳に残っていた。私に覆い被さる様に倒れた女が、ゆっくりと床に体を沈めていく。

掌に粘っこい紅い液体がまとわりつく。私は掌を見つめたまま動けなかった。唯、どうしようもない喪失感だけが私の胸を支配していた。

『どう？面白かった？』

女に問われ子供は不服そうに眉を寄せた。

『それでお話終わりなの？』

どうやらその子供には話の内容より、長さが判断基準の様だった。女は剥れる子供に微笑みかける。

『そろそろ時間切れ』

女の言葉を待っていたかの様に、遠くで子供を呼ぶ声がする。慌てて駆け出した子供を見送り、女はふと空を見上げた。

蒼く染まっていく空に、少しづつ星が瞬くのが見える。女は掌を翳し、うつそりと微笑んだ。

『…あの子はまだ小さ過ぎるわ。ねえ、お母様？…』

女の傍らにある街頭がついた。灯りに照された女の顔に怪しげな

影が宿る。

『もう少し大きな子をお母様の所へ送るわ。それで寂しくないでしよう?』

クスクスと笑って、女は踵を返す。次なる獲物を見定める為に、女は夜の闇へと溶けていった。

（後書き）

初めまして、御神楽羽奏です。初掲載作品『人形の夢』如何でしたでしょうか？この作品は、悲しくも狂気に満ちた少女を中心に描いた愛憎の物語です。お人形さんみたいに可愛く、いたいけな少女が壊れていく様を堪能して戴ければ幸いです。これからもちょくちょく頑張っていこうと思いますので、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3435c/>

人形の夢

2010年10月11日21時14分発行